

江東区旧大石家住宅にみる水害対策の工夫

旧大石家住宅の内部は土間部分と床畳部分に分かれ、床畳部分は6畳・8畳の座敷と6畳・4畳半の板の間の計4室からなる田の字型の間取りです。

度重なる水害に対する工夫として、屋根裏を広く利用できる「登り梁構造」になっています。登り梁とは、水平にではなく、屋根勾配などに合わせて斜めに架けられた梁のことです。屋根裏を広くすることで、浸水時には屋根裏に避難し、水が退くまでの間そこで生活できるようになっています。



屋根裏のようす



旧大石家住宅内部



登り梁構造